

オリーブの樹体調査による生育状況の共有

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島市では耕作放棄地対策と併せ、搾油による6次産業化で地域振興を図るために、令和2年度からオリーブが市内13か所で合計約1200本(30品種)が植栽され、約3haの面積となっています。しかし、現地では、多品種が毎年植栽され、品種や年次の生育差があり、ほ場条件や降雪被害で同品種間でも差が生じており、順調に育成しているのか分からない状況でした。

そこで、生産者と連携し、ほ場を絞り込み、生育状況や病害虫の発生について把握し、対策について検討しました。

【普及活動の内容】

共同活動に取り組む武曾と南深清水で生育状況や病害虫発生状況の確認を行いました。春と秋に生育調査を行い、樹高や幹周、樹容積などを測定し、検討しました。病害虫発生については、害虫はハマキムシ類、スズメガ類、ゾウムシ類について被害を確認し、生産組織のリーダーと対策を共有しました。また、病害では梢枯病と思われる被害を確認しました。

【普及活動の成果】

樹高について、深清水の大苗(主幹部59~100cm)では植付2年目(R3年植)で2mに達成し、武曾の普通苗でも植付1~2年目(R3~4年植)で1.5mに達しましたが、R4年の豪雪で枝被害を受けた樹は生育が十分でないものが多くありました(図1)。また、幹周や樹容積からは、植付3~4年(R元~2年植)で枝葉が充実し急激に樹が大きくなっていることが分かり、一部着果も確認できました。そのほか、樹育成の期間においてハマキムシ類対策など基幹防除は最低3回が必要と考えられました。

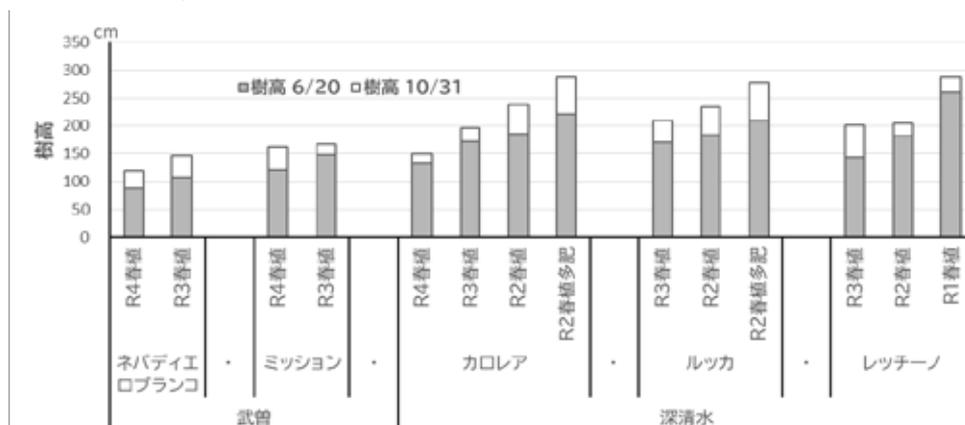


図1 植栽年毎の生育状況(品種別の樹高)

◎対象者の意見

生育状況や病害虫発生状況について、その都度連絡をもらい、問題に対して早めの対応ができた。得られた内容は次年度に活かしたい。(生産者)